

そ う か が く

後期号 (No. 37)
21. 3. 24 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集



のめり込むこと

総合的な学習部長

原 博 司

生平小学校に、二年続けてムササビの赤ちゃんが届けられました。私は、なんとか元気に育てて山に返してやりたいという一心で、子どもたちと一緒に育て始めました。

「校長先生、図書室にムササビの本があったよ。わたしもう読んだから校長先生読みますか」と本を持って来てくれた三年生の子がいました。また、離乳時期も、何を食べさせたらいいのかもわからない時がありました。子どもたちと、裏山でコナラやカシ、ヤマモモなどの新芽を集めながら木の名前を図鑑で調べているうちに、子どもたちはドングリの木の種類が分かるようになりました。

ムササビのことを知り、新聞やテレビの取材で多くの人が学校に来てくれました。最初はとまどっていた子どもたちも、慣れるに従って、話をまとめて上手に話せるようになってきました。ムササビをビデオに撮って、それに自分たちで言葉を考え、アフレコで、短編映画にした子どもたちがいきました。アジア国際子ども映画祭に応募し、表彰されました。



全国野生生物保護実績発表大会において
生平小学校が文部科学大臣奨励賞を受賞しました

一匹のムササビを通して、子どもたちの世界がどんどん広がっていきました。毎日が、こんなにわくわく、どきどきした二年間はありませんでした。

「総合的な学習の時間」は、まず担任の先生が感動できる時間でなくてはなりません。先生が、この題材を通して、子どもたちにこういうことを学ばせたい、というストーリーが必要で、そして、一人一人が、その題材をとおして、自分の追究課題をしっかり持てるのが大切です。取り組んでいる中から新たに生まれてくるものがたくさんあればあるほど、その題材は生きたものになってくるはずで、先生には、お釈迦さまが孫悟空を手の平に乗せて遊ばせるような心が必要で、そのためにも先生がその題材にのめり込み、多くの情報と、そこから派生すると思われる事柄について、知っておくことはとても重

要なことです。それが、子どもたちの新たな発見や感動を引き出すことにつながっていきます。
本校では、「まとも発表会」を保護者の前でやるようにしています。発表する力もつきますし、家庭でも話題ができ、保護者にはとても好評です。
もう一つ、思うことがあります。総合的な学習の時間は、班やグループでの活動が多くなります。どうしても、積極的な子の陰に隠れてしまいがちな子が出てきてしまいます。こうしたことを防ぐためにも、一人一人に課題、目標をしっかりとさせ、その取り組みを、教師が学習カードなどの記録を見ながら、しっかり把握し、アドバイスを与えていくことです。個々の子どもの、意欲や主体性を伸ばしていくけば、全体のレベルアップにもつながるはずで、先生方の挑戦に期待しています。

研究報告

九月に行われた教育研究会では、多数の優秀なリポートが提案され、岡崎の今までの研究の確かさを確認する討論が行われました。その結果、岩津中学校 山盛 誠治先生と城南小学校 戸澤 繁美先生が県教研へと推薦され、十月に名古屋にて県教研が開かれました。県教研においても岡崎のリポートが高い評価を受け、戸澤先生のリポートは愛知県代表として選ばれ、全国教研に参加して、岡崎の実践を全国の場で発表していただきました。

お二人の先生に、県教研・全国教研それぞれの様子を報告いただきましたのでご覧ください。



◆第五九次 教育研究愛知県集會 参加報告

岩津中学校 山盛 誠治

十月三十一日に、名古屋市の愛知県労働産業センターにて、教育研究愛知県大会が行われました。

基調提案として、昨年度行われた第五八次教育研究全国大会の「総合学習」の概要と、それに鑑みた愛知の実践の特色、課題点などが報告されました。

続いて行われた実践の提案では、安城市や豊田市の小学校の先生から、学区を流れる川の歴史や役割を見つめ、地域の良さを再認識する実践や、名古屋市

の小学校の先生から異文化理解や支援活動を切り口にした国際理解教育の実践が提案されました。他にも、食の安全性の理解と地産地消の推進を目指した実践や、職場体験学習や米作りを通じたキャリア教育の実践などが提案されました。



討論では、子どもたちに有る感や有能感をもたらす実践についての意見交換がなされ、いかに自己認識を深めていくか、他者とのようにかかわりをもたせていくか、そして、いかに個を伸ばしていくかについて建設的に話し合われました。また、子どもたちの日常へと還元していくための実践力を育むことの大切さや、小学校と中学校との活動の連携の重要性についても指摘されました。

各地域の実践提案や討論を通して、総合学習の多様性や価値、そして可能性とともに、岡崎の実践の確かさと質の高さを改めて実感することができました。

◆第五九次教育研究全国集會 参加報告

城南小学校 戸澤 繁美

一月二十三日から二十五日、山形県にて教育研究全国集會が開催され、総合学習の分科会に参加させていただきました。

分科会では、二十九本のレポートが寄せられ、様々な切り口で地域とかかわりながら進められた実践が報告されました。

討論では、地域との連携のあり方やテーマ設定の仕方などが話題になりました。どのレポートも、地域を学習に生かした子どもたちの活動や考えの深まりが報告され、生活と密接にかかわる問題から学習をはじめることの大切が確認されました。さらに、地域の方に学習の手伝いをしてもらおうというだけの一方的なかかわりではなく、学校と外部、それぞれの思いをふまえ、ともに向上していける関係を築くことが望ましいとの助言を得ました。テーマ設定については、ただ楽しいだけでなく、質の高いおもしろさを感じられるような活動が必要であることや、テーマ設定までに時間をかけ、丁寧に学習問題をつかませることにより、子どもたち一人一人の課題となり、追究意欲を高め、持続させることにつながる



県代表として参加された戸澤先生 (中央)

と確認されました。

分科会は、二日目と三日目の午前中に、二つに分かれ、私は「人権・平和の視点から」の小分科会に参加しました。広島を舞台に据えた平和教育のレポートが多く報告され、戦争という経験したことのないものについて、その切り口は子ども

であるため、それぞれの発達段階における気付きの場の設定と、学年や校種を越えて学びを続けていくことの大切さが確認されました。

時間数の削減に伴い、より一層、「つけたい力」を明確にして、カリキュラムの構想を工夫していく必要性が今後の課題としてあげられました。

岡総研へようこそ

◆岡崎総合的な学習研究会報告

形埜小学校 鈴木 善博

今年度の『岡総研』は、愛知教育大学准教授の久野 弘幸先生、同大講師の三浦 浩子先生、元連尺小学校長の福應 謙一先生を講師にお招きして、六回の研究会を開催しました。毎回、新任の先生から、ベテランの先生、また、市内だけでなく他郡市からも多くの先生が参加されました。

授業研前の指導案を持ち寄って練り合ったり、授業記録から子どもの姿を通して授業分析をしたりしました。また、授業の様子を記録した映像資料をもとにして、久野先生から子どもの見取り方をご指導頂きました。

そして、十二月十九日には、千万町小学校で研究会を開催し、今年度で閉校となる千万町小、大雨河小、鳥川小の実践報告会や、フィールド研修、懇親会を行いました。

どの会も、積極的に参加して下さった先生方のおかげで、学びの多いとても充実した会になりました。本研究会のテーマは「あなたが主役！」です。来年度も、多くの方に「参加して良かった」と思ってもらえるような会にしていきます。皆様の参加をお待ちしています。